

5 本時（第3学年：4/11，第4学年：4/11）

(1) 目標

○ 感想をまとめるために、教材文を比べる読み方のポイントを見付けることができる。

○ 感想をまとめるために、教材文から気持ちの変化を読むポイントを見付けることができる。

(2) 指導に当たって

つかむ・見通す段階では単元のめあてとゴールを確認し、前時までの活動との違いをそれぞれの学習課題から明確にし、必要性をもって学習に取り組めるようにする。また、学習計画から自分たちでめあてを立て、具体的な課題解決の見通しをもたせたり、解決方法を確認したりして、主体的に学習を進められるようにする。練り上げの段階では、自力解決したことをガイドを中心に話し合わせ、共通点から読み方のポイントを探していく活動を行い、まとめへとつなげる。まとめる段階では、これまでの学習と本時のキーワードを基に自分たちでまとめができるようにしたい。振り返りの場面では、肯定的に考えの変容を捉えさせ、最終的な自分の考えを明確にさせる。また、異学年の交流を図り本時でどのようなことができるようになったのか、どのように自分の考えが変容したのかを感じることができるようにしたい。

(3) 実際

※ 必要性： 自律性： 関係性： 有用性： **あ**：子供の主体的な学習 **い**：同学年の学び合い **う**：異学年の学び合い **え**：積極的な個別対応

指導上の留意点	主な学習活動（第3学年）	過程	位置/時間	過程	主な学習活動（第4学年）	指導上の留意点						
<p>あ 学習に必然をもたせるために、前時の学習を振り返り、かげおくりの違いに焦点を絞って考えられるようにする。</p> <p>い 自分たちで立てた学習計画を基に本時の学習問題を確認し、ゴールに向けた本時の問題に「挑戦したい。」という意欲をもたせる。</p> <p>あ 必要性をもって課題に取り組めるように、前時までの学習との違いから、気付いたこと（これまでとの違い）に着目させ、全体で本時のめあてを引き出せるようにする。</p> <p>あ 本時で確認できそうな見方・考え方の手がかりをもたせるために、既習内容を掲示したり、課題解決に適した方法にどんなものがあるか話し合わせたりして、活動に見通しをもたせる。</p> <p>え 自力解決が難しい子供には、着目させた箇所（場面）を伝え、どんな相違点があるかを考えさせる。</p> <p>い 自分の考えを広げたり深めたりするために、二つのかげおくりの比較から、比べて読む読み方のポイント进行分类・整理しながら話し合わせる。必要に応じて個々の考えや友達のを分類・整理をし、友達の考えを聞きながらオンタイムで考えを付け加える。</p> <p>い まとめへとつなげるために、かげおくりの様子や出来事を比べて読んだことが、読み方のポイントになっている点に着目させる。</p> <p>あ 自己の変容を肯定的に捉えさせるために、「じ・か・つカード」を提示させ、自己の考えの変容に着目して振り返りをさせる。</p> <p>う 学びの深まりや話し合いのよさを実感できるように、振り返りを行うとともに、系統性を明らかにするために異学年の交流を図る。</p>	<p>1 単元のめあてとゴールの確認</p> <p>2 前時の復習</p> <p>空を比べるには、同じ言葉をさがしたり、書かれている様子を比べてみればよいと分かりました。</p> <p>3 学習問題（本時の学習）の確認</p> <p>『かげおくり』をくらべる。</p> <p>4 気付いたことの話合い</p> <p>かげおくりを比べるんだね。今日は、離れた場面に書いてあるね。</p> <p>5 めあての設定</p> <p>くらべて読むには、どのようにすればよいだろうか。</p> <p>6 解決の見通し</p> <p>まずは、かげおくりが書いてあるところを見付たいな。</p> <p>かげおくりの様子を比べて読みたいな。</p> <p>7 自力解決</p> <p>8 考えの共有</p> <p>家族四人とちいちゃん一人のかげおくりは、人数が違うから、かげおくりでも出来事が違うと思うよ。</p> <p>はじめではお父さんが「かげおくりのよくできそうな空だなあ。」と言っているけど、あとの方はお父さんの声が「青い空からふってきました。」だから、様子は違うね。</p> <p>9 学習のまとめ</p> <p>くらべて読むには、出来事・会話・様子に注目すればよい。</p> <p>10 振り返り・交流</p> <p>二つのかげおくりを比べるだけでなく、そのときの会話や様子を比べて読めばよいと分かりました。</p>	つかむ	10	見通す	<p>1 単元のめあてとゴールの確認</p> <p>2 前時の復習</p> <p>ごんの気持ちは、気持ちを読むだけでなく、行動や会話からも分かる気がしました。</p> <p>3 学習問題（本時の学習）の確認</p> <p>気持ちの変化を読む。</p> <p>4 気付いたことの話合い</p> <p>昨日の学習を生かして、ごんの気持ちはどう変わるか、考えればよいね。</p> <p>5 めあての設定</p> <p>気持ちの変化を読むには、どのようにすればよいだろうか。</p> <p>6 解決の見通し</p> <p>まずは、気持ちの変化したところを見付けたらいいね。</p> <p>変化したところを線でつないだら分かりやすいかな。</p> <p>7 自力解決</p> <p>8 考えの共有</p> <p>4場面でごんは遊びに出かけたけど、5場面では兵十と加助の後をつけて、「かげをふみふみ行きました。」とあるので、二人の会話を聞きたい気持ちになったことが行動で分かります。</p> <p>はじめ魚を逃がすときは兵十へのいたずらだけど、3場面ではいしを兵十の家に投げ込むときは、いたずらではなくてつぐないなのでごんの気持ちが違うことが分かります。</p> <p>9 学習のまとめ</p> <p>気持ちの変化を読むには、場面同士の気持ち・行動・情景をつないだり比べてみればよい。</p> <p>10 振り返り・交流</p> <p>私は、気持ちを表す言葉を場面をつないで考えたけど、〇〇さんは、行動を比べていたので、次は行動を比べて気持ちの変化を考えてみたいです。</p>	つかむ	25	調べる	練り上げる	まとめる	振り返る	<p>う 互いの学習内容の関連性や系統性を捉えるためにも、毎時間単元のめあてと単元のゴールを異学年で交流する。</p> <p>い 学習に必然をもたせるために、前時の学習を振り返り、ごんの気持ちの変化の読み方に関連して焦点を絞って考えられるようにする。</p> <p>あ 必要性をもって課題に取り組めるように、前時の気持ちの読み方から気持ちの変化の読み方に着目させ、全体で本時のめあてを引き出していけるようにする。</p> <p>あ 自ら学び自ら考える学習を促すために、これまで学習してきた板書や教科書を参考にしながら自力解決を図らせる。</p> <p>え 自力解決が難しい子供には、前時までのごんの気持ちが表れている文章を比較させることで、ごんの気持ちの変化を考慮できるように個別指導を行う。</p> <p>い 自分の考えを広げたり深めたりするために、気持ちの変化への気付き方から、読み方のポイント进行分类・整理しながら話し合わせ、必要に応じて個々の考えや、友達の考えを聞きながらオンタイムで考えを付け加える。</p> <p>い まとめへとつなげるために、個々が選んだ気持ちの変化が分かる表現を、それぞれの視点で選んだのかを分類させ、読み方のポイントとして注目できるようにする。</p> <p>あ 自己の変容を肯定的に捉えさせるために、「じ・か・つカード」を提示させ、自己の考えの変容に着目して振り返りをさせる。</p> <p>う 学びの深まりや話し合いのよさを実感できるように、振り返りを行うとともに、系統性を明らかにするために異学年の交流を図る。</p>